

# マイコプラズマ肺炎に注意



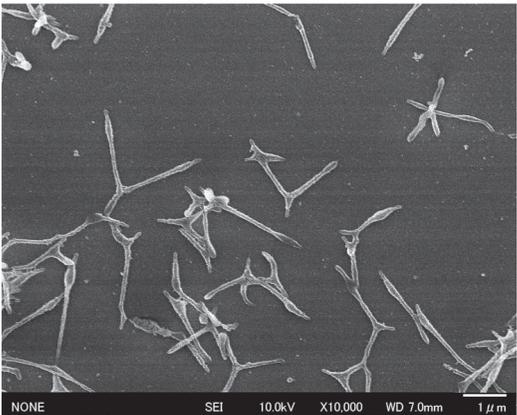
子どもが感染しやすい「マイコプラズマ肺炎」が流行しています。発熱やせきなどの症状が見られ、重い肺炎を引き起こすことも。いま、患者の数が過去最多となっています。冬に向け、さらに増える可能性もあります。感染対策も紹介します。

## 1週間の患者数が過去最多

国立感染症研究所によると、9月30日～10月6日の間に報告された患者の数は、一つの医療機関あたり1・94人。6週連続で増えていて、いまの方法で統計を取り始めてから、1週間の患者の数としては一番多くなっています。

14歳以下がかかりやすいマイコプラズマ肺炎の原因は「肺炎マイコプラズマ」という細菌です。新型コロナウイルスやインフルエンザを引き起こす「ウイルス」とはちがいで、細菌は小さな生き物です。退治するための治療薬も異なります。14歳以下の子どもが、感染しやすくなっています。

ただ、秋から冬にかけて感染者が増えることが多く、今年は特に気を付ける必要があります。



## 感染から発症まで2～3週間／基本の感染対策を

寒くなると空気がかわくと、マイコプラズマ肺炎だけでなく、さまざまな感染症がはやりやすくなります。感染を防ぐためには、基本的な対策をすることが大切です。

まず、こまめな手洗いやアルコール消毒をすること。細菌やウイルスなどがついた手で口や鼻をさわって感染する「接触感染」を防ぎます。

人混みに行ったり、体調が悪かったりするときには、マスクを着けます。鼻からあごまでしっかりおおうように、正しく着けるようにしましょう。

感染症は、せきや会話で口から出る小さな水滴「飛沫」でも、ほかの人にうつります。空気が乾燥する冬は、細菌やウイルスの周りについて水分が蒸発しやすくなります。すると、空気をただよう時間が長くなり、感染が広がりやすくなります。これを防ぐため、室内では加湿器などを使うとよさそうです。

バランスの良い食事や栄養をとったり、きちんと睡眠をとったりして、体の調子を整えることも大切です。

マイコプラズマ肺炎は、感染してから症状が出るまでの期間が2～3週間。新型コロナウイルスやインフルエンザより長いのが特徴です。家族やクラスメートに症状が出てから、忘れたころに自分に症状が出ることもあります。せきが長引くときは病院へ行きましよう。

絵本のようなドリル  
よんでかいておぼえる  
おはなしかんじ  
ウサギとカメ、かぐやひめ、おりひめとひこぼし、うらしまたろう…6話収録  
定価 935円(税込み)  
朝日小学生新聞社 くわしくは www.asagaku.jp

天声人語  
太陽はその中心が燃え続けている、私たちに光と熱を届けてくれます。今月9日、それは別に表面で大きな爆発がありました。写真をとって大きさを知ることができました。「太陽フレア」と呼ばれます。フレアは燃え上がる火という意味です。いつもおきていますが、今回は大きくて、地球に真っすぐふき出す方向だったので注目されました。大きなフレアは5月にもありました。太陽のまわりの電気を帯びた原子や電子が飛ばされる「太陽風」がたくさんやってきて、各地でオーロラが見えました。今回も石川県や山口県で見えたそうです。この太陽風は秒速820キロの速さでした。遠い太陽から2日でやって来ます。もっと強い太陽風が来ると、宇宙ステーションや地球に害がおよぶかもしれません。それを少しでも早く知るために、太陽との間には番人のように観測衛星が置かれています。科学者の知恵に感謝します。

◇ 10月18日付紙面から